

ースタッフー

役 職	スタッフ名
部長兼脊椎センター長 兼リウマチセンター副センター長	金澤 元宣
医長兼人工関節センター長 兼リウマチセンター副センター長	藪野 互平
医 長 兼人工関節センター副センター長	澤田 典与司
副医長兼脊椎センター	小瀬 弘樹
医 員	渡邊 真生

ー概要ー

当院の整形外科部門は大阪大学整形外科(医学系研究科器官制御外科学)教室の卒後研修ネットワーク関連病院の一つとして、指導的立場にある日本整形外科学会認定専門医3名が赴任している。一般的な整形外科診療に加えて、機能再建手術脊椎外科手術／下肢人工関節手術を中心に高度な専門的治療にも力を注いでいる。その他、骨・軟部悪性腫瘍など特殊な治療が必要と判断された疾患に対しては、大阪大学関連病院のネットワークを利用し、各疾患に応じた専門治療が可能な医療施設への紹介を行っている。平成24年4月より診療体制が一新され、脊椎センター、人工関節センターを開設した。人工関節センターではナビゲーションシステムを用いたコンピューター支援手術をおこなっておりより正確な人工関節の設置が可能となっている。

現在、金澤元宣整形外科部長(脊椎センター長)、藪野互平整形外科医長(人工関節センター長)、澤田典与平整形外科副医長(人工関節副センター長)、小瀬弘樹整形外科副医長(脊椎外科担当)、野上雅史副医長、およびレジデント1名の6名体制で前記の専門外来を中心に各種整形外科疾患に対応している。また隣接する泉州救命救急センターにも同門の大阪大学整形外科より派遣された常勤スタッフが在籍しており、協力体制を築いている。

平成16年度より始まった新研修医制度に従い、初期研修1年目の新研修医に対しては外科系研修の一環として1か月間の外傷プライマリケアの指導を、初期研修2年目の整形外科専攻を希望する研修医に対しては最大6か月の整形外科専門研修指導を行う。また卒後3年目以降の後期研修医に対しては、大阪大学整形外科後期研修プログラムに則り、整形外科専門医を育成するための研修指導を実践している。また研修医には診断能力や診療技術の習得のみでなく、学会発表や論文投稿などの学術的な面で

も整形外科学の発展に将来寄与できるような医師を目指すことを求めている。

外来診療:

平日は一般外来診療を午前2診で行っている。平成25年1月より完全予約制を導入し円滑な外来診療をこころがけている。脊椎外科および関節外科、リウマチ領域に特化した診療をおこなっている。

手術以外の保存的治療については、火曜午後と金曜午後に義肢装具を要する患者への処方をする装具外来診を行っている。また長期間にわたる継続的な保存的な治療の必要性が見込まれる慢性疾患に対しては、まず当院で最新の画像診断機器等を用いた原疾患の診断と重症度、進行度を正確に評価し治療方針を決定する。その後、理学療法や、内服処方による通院治療の実践は地域医療ネットワーク(病病連携、病診連携など)を通して適切な地域内各医療施設へ紹介している。

入院診療:

7階海側病棟に計25床の急性期病床を確保している。年間約400件の入院手術を平均在院日数約22日で運営するため常時満床の状態である。したがって原則としてリハビリや安静目的のみの保存治療を目的とした入院は病床管理のうえで物理的に不可能であり、外来受診の時点で前述の地域医療ネットワークを通して適切な他の医療機関に紹介している。また術後安定期に入り、さらにリハビリの継続が必要と判断される患者に対しても、一定した質の高い専門的なリハビリができる病院を泉州地域内に確保し連携を密にしている。

近年、患者が理解しやすい十分な説明が可能なことと、限られた医療資源を効率よく運用するために、入院治療においてはクリニカルパスの重要性が広く認識されるようになった。当科では予定手術の場合、入院から手術、後療法(リハビリ)、退院までほぼ全症例でクリニカルパスを用いて実践している。

今後も周辺地域の病院・診療所と密接な協力関係を保ちつつ、地域基幹病院の整形外科部門として果たすべき役割を永続的に担うことが当科の目標である。

専門診療:

上記3部門を専門分野とし、手術治療に力を入れている。

1) 脊椎外科(担当:金澤、小瀬)

- ・頸髄症性脊髄症に対する椎弓形成術、前方除圧固定術など
- ・腰椎変性疾患に対する後方侵入椎体間固定術、開窓術
- ・椎間板ヘルニアに対する椎間板摘出術 など
- ・リウマチ、脊椎腫瘍の対する手術、骨粗鬆症性椎体圧壊に対する手術

2) 下肢人工関節(担当:藪野、澤田)

- ・ナビゲーションシステムを用いたコンピューター支援手術による人工関節手術
- ・変形性関節症、リウマチによる股関節症、膝関節症に対する人工関節置換術
- ・人工関節の緩み症例に対する再置換術など、膝関節・股関節に特化した専門治療をおこなっている

3) 関節リウマチの薬物療法と

- ・各種生物学的製剤を含む最新のリウマチに対する薬物治療
- (関節形成術、人工肘関節、人工膝関節など)

—実績—

1) 臨床治験実績

大阪大学医学部整形外科と連携して、整形外科領域の新しい医療材料や医薬品の開発につながる臨床治験に積極的に参加している。

2) 手術統計(2012.1.1～2012.12.31)

全手術件数:279例(同時施行手術は1件と算定)

内訳:

外傷(抜釘を含む 80 例)

- ・骨折の観血的整復固定
 - 上肢 35 例
 - 下肢(股関節周囲) 33 例
 - 大腿骨人工骨頭 9 例
- ・軟部組織(軟骨, 腱, 神経)損傷の再建 3 例

変性疾患(117 例)

- ・手根管開放(手根管症候群) 6 例
- ・腱鞘切開(ばね指) 16 例
- ・変形性関節症、関節リウマチに対する人工関節
 - 肘 0 例
 - 股(再置換) 45 例
 - 膝(再置換) 45 例
 - 足趾 2 例
- ・関節リウマチに対する関節形成
 - 手関節・手指 1 例
 - 足関節・趾 2 例

脊椎疾患(68 例)

- ・頸椎 20 例
- ・胸椎 8 例
- ・腰椎 40 例

腫瘍(15 例)

- ・骨腫瘍 2 例

壊死による四肢切断(15 例)

- ・下肢 5 例

その他(抜釘等)

10 例